

# いなほ

第123号

2022年5月20日

NPO 法人 萌

代表 渡多江文哉

横浜市戸塚区深谷町 893-2

B型事業所 工房いなほ

相談支援事業所 ふかや

グループホーム 独歩

TEL 045-443-7416

URL <http://www.mo-e.jp>

## 医療と福祉

今の医療は専門性を重視する。以前なら、内科だけだったが、今は、消化器内科・循環器内科・糖尿病内科等専門分化している。専門性に特化しているというわけだ。萌の以前に亡くなった配送職員は、朝遅刻などしたこともなく、たまたま、その日来ていなかったの、電話を掛けた。救急車の中だという。背骨を圧迫骨折したようだ。背中が痛くて起き上がれないという。その後何度電話してもつながらなかった。次の日亡くなったと親族から連絡があった。自宅で亡くなっていたというのだ。たぶん整形外科に受診され、なんでもなく、自宅にかえされた？死因は心臓の発作であったようだ。会長も某有名な病院の糖尿外来に通っていたが、すい臓の異変には気づかれなかった。死後見つけた、過去5年の検査結果をおうと、検査データはいつもあまりよくない。ただ、昨年5月と7月、以上に血糖値が悪いと本人は言っていた。食べすぎているのにおかしいと言っていた。医者から見れば、過去にもそういう数値があったわけだから、特に検査もしなかったのかもしれない。病院にかかりながら、発見されない病。父親も脊柱管狭窄症で苦しんでいた。ふくらはぎが我慢できないほど痛いから、病院に行くと言って、病院に行けば、いつもの整形外科に受診して、腰からだろと言われた。でも、やはり痛みは続き、再度病院に行き、なんでもないわけではないと、私が騒ぎ、血液検査したら、ある数値が異常に低く、すぐ入院になった。父も癌でなくなっている。

専門性に特化するということは、人間の身体全体の变化、他の病気ということを考えなくするということになるのだろうか？人間の身体は一つであり、相互関連しあって存在していることを忘れさせていくのではないか？

福祉も今、専門性に特化していくことが、言われている。居宅介護・就労定着・就労支援事業所・共同生活援助・計画相談等々。ただ、以前会長も書いていたが、生きている人間は一人で、その一人が多くの分野を抱えているということであり、細切れにはならない。トータルに一人を見つめていく視線がともすれば消えていく。その恐れはある。

会長の闘病生活の最後を、在宅医療にした。私たちはかかっていた病院と地域の在宅医療が連携するのかと思っていたが、現実が違う。亡くなると分かって在宅医療になれば、病院はもう切れてしまう。そういうシステムになっているのだ。(波多江久美子)

## 萌日記 2022. 3.21~5.20

発行日の関係で、今回は年度末から2か月分です。

・グループホーム独歩に新しい利用者さんが加わりました。いなほを「卒業」して戸塚区内で働いている方です（3月下旬）。

・運送事業の「みやげ」が4月に開業しています。運転手5名と運行管理者でスタート。パレットやその材料の運搬以外の、運送業務も順次受け



一つの製品が完了して次の準備

始めています。

・壊れていた粉碎機が直って、畑の竹を粉にする作業ができました（4/11）。竹粉は肥料として活用されます。

・養護学校、特別支援学校に順次、事業所紹介にご訪問しています（4/12~）。養護学校の方からも見学に来られています（4/25）。

「いなほ」の利用を目的とした見学の方も数人ご来訪がありました。

・理事会が開催され（4/16）、経費削減などが議題でした。6月の総会に向けて、5月後半にも理事会が予定されています。

・型抜きの仕事は4月末で終了しました。従事していた利用者さんは、その後電化製品の分解を担っています。

・農業に新しい職員さんをお迎えしました（5/4~）。

・畑の作物は春物の収穫と次の植え付けが順次進み、戸塚事務所前での販売（5/12~）も再開されました。

・入院していたある利用者さんも復帰し、身体と相談しながら（概ね）元気に働いています。萌では本人に合った病院を探したり、通院に同行して本人の訴えを補足し現状を把握したり、という支援をしてきました。

・独歩の利用者さんも一時入院しました（5/16~）。やはり病院訪問、退院の支援などを行ないました。今では元気に働いています。

健康状態を見守る必要のある利用者さんは他にもいます。いつもみんな言っていることですが、“仕事”に留まらない支援が必要です。（岡）



## 日本ミツバチ



今年は2回分蜂した。2回目は農地裏の高い桜の木の上。はしごを使ってFさんが蜂の塊を取ってくれた。晴れた日の暖かい日。突然日本ミツバチがかたまりになって空を舞う。最初は何の虫かと思ってみていたら、日本ミツバチ達の乱舞だった。ああ、これが会長の言っていた、蜂の分蜂なんだと感激した。



一つは会長の作った蜂箱、もう一つは作成が追い付かず、市販の重箱である。どうか蜂が逃げませんように・・・

## 農作物



スナップエンドウも無事収穫

会長が闘病中に移植した苺・・・無事収穫にこぎつけました。毎日利用者さん達が収穫してくれて、もうすぐイチゴジャムになっていきます。



カラスに食べられないように苺畑にネットをかけた。

今年はジャガイモ・さといも・さつまいも・ごぼう・小豆などを植え付けました。会長が植えてほしいと言っていたもの。長ネギも沢山と言っていたので、たくさん植えました。にんにくと玉ねぎはたくさん植えてと言っていたので、沢山作る予定です。

### いなほ通信と会長の思い出

本の話も、福祉の話も書けなくなった。私は今自分が考えたり、想っていることしか書けない。論理ではなく感性で書いているのだろう。通信も会長と共に切磋琢磨して書いていたところがある。お互いテーマについて話、今月はこういう校正で行こうと話、書いた原稿を見せ合う。私が「これはよく意味がわかりよという」と、その文章がどういう意味で書いたものかの解釈を言ってくる。「だって読んでいる人はその解釈聴けないのだからやはり書きなおしたほうがよいと思う。」という怒りだすので、「じゃあ感想なんか聞かなくてもよいじゃん」と口論になる。亡くなる直前まで、毎回繰り返された出来事だ。今はもうそういう世代共有する同志がいない。ゼッタイこの日に出すという会長の強さがなくなったから、ばらばらの日程になることが多くなった。私には、私の原稿を推敲してくれる人、ここは良かったとか、次はこれを書こうという会話の相手はもういないのだ。

人は皆、世界で一人で生きている。これは当たり前のことだ。けれど、会長がいた時は一人が、1.5人になっていた。会長は口先だけで物は云わない、相手に合わせることはない、自分の意見をかならず持っている、八方美人とは真逆な人だった。信に耐えうる人だった。口先であるいは愛想でものを語る人は多い時代、そういうこととは縁のない人だった。慰めの優しい言葉など聞いたことが無い。だけど、信頼の確固とした軸であった。その存在が消えた。私の心の中で、何かが空にとんだ。

もう決して埋まることのない、大きな空洞ができた。

(波多江久美子)



6月11日土曜日 13時～

2022年度NPO法人萌総会

横浜市戸塚区戸塚町 4918-1 相談支援事業所ふかやにて  
開催いたします。

### 編集後記

イタリア文学にある時から虜になった。その物語の中に、聖遺物の話が出てきて、これはなんだということになり、キリスト教の文化をおうことになった次第である。その中で、十字軍に興味湧いて、塩野七海の文学と出会うことになる。文学は人を描くので、学術的な歴史書を読むより面白い。今は、1000年に渡る、ローマの栄枯盛衰を読んでいる。若い頃には興味もなかった、時代や国に興味が出てきたわけである。ただ、どうして、イタリアなのか？看病で疲れた時に読んでいた、イタリアの中世からルネッサンスの物語には、ロマンが感じられ、ほっとするひと時を与えられた。(所長)